

Oracle8 Server for HP-UX 10.20

リリース・ノート

リリース 8.0.6

2001 年 1 月

部品番号: J00779-02

原典情報: A75294-01 Oracle8 Release Note for HP 9000 Servers and Workstations Release 8.0.6

ORACLE®

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。Advanced Networking Option、Advanced Replication Option、Developer/2000、Enabling the Information Age、InterOffice、Oracle Applications、Oracle Call Interface、Oracle Enterprise Manager、Oracle Installer、Oracle InterOffice、Oracle Names、Oracle Parallel Server、Oracle Server Manager、Oracle WebServer、Oracle7 Server、Oracle8 Server、PLUSQL および Pro*C/C++ は、Oracle Corporation の商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

Copyright © 1999, Oracle Corporation
All Right Reserved

目次

使用上の注意	4
はじめに	5
マニュアルに記載されている名称について	5
英語オンラインドキュメントの扱いについて	5
リリース 8.0.6.0.0 製品セット	6
アップグレードおよびダウングレード・スクリプトの新しいネーミング規則	8
サポートする OS バージョン	8
Installer について前バージョンとの変更点	8
Default Install と Custom Install について	9
製品選択の階層について	9
Oracle インストール前の設定作業	9
インストレーションについての注意事項	10
README.FIRST ファイル	10
Oracle Intelligent Agent のインストールについて	10
Oracle TNS および Naming Adapter Error について	10
Installer から Relink を実行した場合	11
De-Install について	11
Pro*COBOL について	11
製品の制限事項および既知の障害	13
Precompiler について	13
Migration Utility	13
HP-UX 10.20 ではサポートされていない製品	14
Oracle Parallel Server の制限事項	14
大きいファイル	14
Oracle Data Gatherer(DG)の制限事項	14
デモストレーションについて	14
Net8 OpenAPI のサポートについて	15
英語オンラインドキュメントの扱いについて	15

エクスポートのメッセージについて	15
Legato Storage Manager について	15
共有ライブラリについて	15
OCI について	15
Installer から複数ノードへモジュールを配信するとエラーが発生	16

使用上の注意

このリリース・ノートは Oracle8 Server for HP-UX10.20 リリース 8.0.6.0.0 製品セットを特に日本語環境で使用するにあたっての注意事項について解説しています。

『Oracle8 for HP 9000 Servers and Workstations (HP-UX 10.20) インストレーション・ガイド リリース 8.0.6』とあわせてご利用ください。

また、製品メディア中の `rdbms/doc/README.doc` ファイルを必ずお読みください。

次の項目に関して説明します。

- はじめに
- リリース 8.0.6.0.0 製品セット
- アップグレードおよびダウングレード・スクリプトの新しいネーミング規則
- サポートする OS バージョン
- Installer について前バージョンとの変更点
- Oracle インストール前の設定作業
- インストレーションについての注意事項
- 製品の制限事項および既知の障害

はじめに

マニュアルに記載されている名称について

Oracie8 関連マニュアルは、英語版を翻訳しているため、マニュアル中で参照されている情報には、日本では提供されていないものも含まれます。

- インターネット URL
- マニュアル名
- ソフトウェア名

英語オンラインドキュメントの扱いについて

CD 媒体上の英語のドキュメントと同一のドキュメントが日本語で提供されている場合は、日本語版を参照してください。

リリース 8.0.6.0.0 製品セット

製品	
Oracle Unix Installer	4.0.3.0.0
Oracle On-Line Text Viewer	1.0.1.0.0
SQL*Plus	8.0.6.0.0
Oracle for HP9000 Servers and Workstations Documentation	8.0.6.0
Net8	8.0.6.0.0
Net8 Protocol Adapters	8.0.6.0.0
TCP/IP Protocol Adapter	8.0.6.0.0
LU62 Protocol Adapter	8.0.6.0 *1)
Oracle Advanced Networking Option	8.0.6.0.0*5)
Security and Single Sign-On	8.0.6.0.0*5)
Client Software	8.0.6.0.0
Net8 External Naming Adapters	8.0.6.0.0
Migration Utility: Oracle7 to Oracle8	8.0.6.0.0
PL/SQL	8.0.6.0.0
Oracle8 Enterprise(RDBMS)	8.0.6.0.0
Oracle Intelligent Agent	8.0.6.0.0
Oracle Data Gatherer	8.0.6.0.0
Oracle Parallel Server Management Components	8.0.6.0.0
Oracle8 JDBC Drivers	8.0.6.0.0
JDBC Thin Driver	8.0.6.0.0
JDBC OCI Driver	8.0.6.0.0
Object Type Translator	8.0.6.0.0
Oracle Cartridges	8.0.6.0.0
Oracle ConText Cartridge	2.4.6.0.0
Oracle8 Visual Information Retrieval(VIR) Cartridge	8.0.6.0.0*1)
Oracle8 Spatial Cartridge	8.0.6.0.0

Oracle8 Image Cartridge	8.0.6.0.0
Oracle8 Time Series Cartridge	8.0.6.0.0*1)
Oracle Options	8.0.6.0.0
Oracle8 Objects Option	8.0.6.0.0
Oracle8 Partitioning Option	8.0.6.0.0
Precompilers	8.0.6.0.0
Pro*C/C++	8.0.6.0.0
Pro*FORTRAN	1.8.28.0.0
Pro*COBOL	1.8.28.0.0
Pro*COBOL	8.0.6.0.0
Oracle Names	8.0.6.0.0*3)
ORACLE NLS Libraries and Utilities	8.0.6.0.0*4)
ORACLE Core Libraries	8.0.6.0.0*4)
Oracle Server Manager	3.0.6.0.0*2)
Legato Storage Manager	5.5.0.0.0*2)*6)
Oracle Trace	4.0.0*4)

備考

コンポーネントは、製品メディアに含まれる製品コンポーネントの一覧を記載したもので、製品ライセンスとは対応していません。

- *1) 日本ではサポートされません。
- *2) Oracle8 Enterprise(RDBMS)と同時にインストールされます。
- *3) Net8 と同時にインストールされます。
- *4) インストール時に選択できるものではありません。
- *5) 対応する Network ソフトが導入されている必要があります。
- *6) この製品は、Oracle Parallel Server を使用した環境ではサポートされていません。

アップグレードおよびダウングレード・スクリプトの新しいネーミング規則

Oracle8 リリース 8.0.6 では、アップグレードおよびダウングレード・スクリプトのネーミング規則が新しくなっています。

スクリプト名には、CAT*.SQL 形式を使用しません。新しいネーミング規則のスクリプトを使用すると、あるリリースから別のリリースへ直接移行することができます。

アップグレード用のスクリプトには U*.SQL 形式、ダウングレード用のスクリプトには D*.SQL 形式の名前が付いています。

次の 2 つの表に、アップグレード用およびダウングレード用の新しいスクリプト名を示します。

8.0.6 へアップグレードする対象	実行するスクリプト
8.0.3	U0800030.SQL
8.0.4	U0800040.SQL
8.0.5	U0800050.SQL

8.0.6 からダウングレードする対象	実行するスクリプト
8.0.3	D0800030.SQL
8.0.4	D0800040.SQL
8.0.5	D0800050.SQL

サポートする OS バージョン

対応 OS は、HP-UX 10.20 です。

オペレーション・システムとパッチ・レベルの要件については、『Oracle8 Server for HP 9000 Servers and Workstations (HP-UX 10.20)インストール・ガイド リリース 8.0.6』の第 1 章を参照してください。

Installer について前バージョンとの変更点

Oracle8 リリース 8.0 の Installer は、以前のバージョンのものと比較してユーザー・インタフェースが変更されています。次に Oracle8 リリース 8.0 の Installer で変更された箇所を説明します。

Default Install と Custom Install について

日本語のメッセージをインストールしたり、US7ASCII 以外のデータベース・キャラクタ・セットを使用するためには、「Install Type」画面にて「Custom Install」を選択してください。

製品選択の階層について

インストールする製品の選択が階層表示になりました。（製品名の左にあるプラス記号(+)によって示されています。）

例えば Pro*シリーズプリコンパイラの各製品をインストールするには、まず「Precompiler」をダブルクリック（キャラクタ・モードでは、「リターン」）し、そのうえで「Pro*C」など個々の製品を選択してください。

「Precompiler」だけを選択しても、Pro*C など各製品はインストールされません。

Oracle インストール前の設定作業

1. 現在の Oracle Installer は日本語環境では使用できません。日本語環境にインストールする場合、あらかじめ環境変数 NLS_LANG を設定解除してください。

【実行例（C シェルの場合）】

```
% echo $NLS_LANG
Japanese_Japan.JA16SJIS
% unsetenv NLS_LANG
```

【実行例（B シェルおよび K シェルの場合）】

```
$ echo "$NLS_LANG"
Japanese_Japan.JA16SJIS
$ NLS_LANG =American_America.US7ASCII; export NLS_LANG
```

2. 環境変数 LANG を設定していると再リンク時にエラーになることがありますので、あらかじめ環境変数 LANG を設定解除してください。

【実行例（C シェルの場合）】

```
% echo $LANG
japanese
% unsetenv LANG
```

【実行例（B シェルおよび K シェルの場合）】

```
$ echo "$LANG"
japanese
$ LANG=C; export LANG
```

3. 古いバージョンの ld プログラム(例 : B.10.15)を使用した場合、**relink** 時にエラーが発生して、インストールが失敗する場合があります。

このような場合、新しいバージョンの ld プログラムをご使用ください。なお、B.10.28 では正常動作が確認されています。

ld プログラムのバージョンは、次のコマンドで確認してください。

```
% ld -v
```

ld プログラムのパッチとしては、HP 社より PHSS_15380 などが提供されています。

ld プログラムのパッチについては、HP 社もしくはハードウェアご購入元にお問い合わせください。

インストールについての注意事項

Oracle をインストールする上で、既知の障害および注意事項について説明します。

README.FIRST ファイル

このファイルには、リリース 8.0.6 の最新情報および制限事項が記述されています。Oracle Installer を起動すると、このファイルが表示されます。注意してお読みください。

Oracle Intelligent Agent のインストールについて

Oracle Intelligent Agent のインストール時には、「Relink All Executables」オプションを選択してください。

Oracle TNS および Naming Adapter Error について

「Relink All Executables?」画面にて、「NO」を選択した場合、
\$ORACLE_HOME/orainst/install.log ファイルに次のようなエラーメッセージが出力されます。

```
Installed Protocol Adapters are: BEQ Protocol Adapter, IPC Protocol Adapter, TCP/IP Protocol Adapter, RAW Protocol Adapter, Error!!! Oracle TNS Naming Adapter not completely installed!, Adapter present in libnetwork.a, but missing from nnfgt.o..., Error!!! Oracle Naming Adapter not completely installed!, Adapter present in libnetwork.a, but missing from nnfgt.o..., Oracle Security Server Authentication Adapter
```

必ず、「Relink All Executables?」画面にて、「YES」を選択しインストールしてください。

Installer から Relink を実行した場合

1. 「Installation Activity Choice」画面にて、「Perform Administrative Tasks」を選択
2. 「Maintenance Mode」画面にて、「Relink Product Executables」を選択
3. 「Software Asset Manager」画面にて、「Oracle for HP9000 Servers and Workstations Documentation」製品を選択した場合、次のようなエラーメッセージが出力されます。

```
Notification
hp_oracle.806.vrf(0): FILE_NOT_FOUND while verifying server.806. (No
such file or directory.)
```

エラー画面にて「OK」を押すと、「Software Asset Manager」画面に戻ります。「Oracle for HP9000 Servers and Workstations Documentation」製品を外して Relink してください。

De-Install について

- 全ての製品を De-Install した場合、最後に次のようなエラーメッセージが出力される場合があります。

```
Notification
hp_oracle.806.dei(279): Unregistered product
```

「OK」を押すと、「Software Asset Manager」画面に戻りますので、「Exit」して De-Install を終了し、UNIX コマンド「rm -r」を使って Oracle をインストールしたディレクトリを削除してください。

- 全ての製品を De-Install した場合、最後に次のようなエラーが出力される場合があります。

```
Error
Installation of shared oracle library to be used for Pro*C, OCI and XA
clients has failed.
Please run
make -f ins_rdbms.mk client_sharedlib
in
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/rdbms/lib
after exiting installer session.
```

「OK」を押すと、「Software Asset Manager」画面に戻りますので、「Exit」して De-Install を終了し、UNIX コマンド「rm -r」を使って Oracle をインストールしたディレクトリを削除してください。

Pro*COBOL について

COBOL/UX がインストールされている環境で、Pro*COBOL をインストールをすると、次のようなエラーメッセージが出力されます。

```

O/S Error
Error during action 'Relinking Pro*COBOL executable'.
Command: make -f
ora806/app/oracle/product/8.0.6/precomp/lib/ins_precomp.mk
ORACLE_HOME=/ora806/app/oracle/product/8.0.6 EXENAME=rtsora relink
Linking rtsora
cob -o rtsora -xe ""
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/precomp/lib/cobsqlintf.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/scorept.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/sscoreed.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/rdbms/lib/kpudfo.o -L
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/ -lclntsh -lsql
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/ -lclntsh -lsql
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/nautab.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/naeet.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/naect.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/naedhs.o `cat
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/naldflgs` -lnetv2 -lnttcp
-lnetwork -lnchr -lnetv2 -lnttcp -lnetwork -lclient -lvsn -lcommon
-lgeneric -lmm -lnlsrtl3 -lcore4 -lnlsrtl3 -lcore4 -lnlsrtl3 -lnetv2
-lnttcp -lnetwork -lnchr -lnetv2 -lnttcp -lnetwork -lclient -lvsn -lcommonx
-lgeneric -lplsfl -lplsbl -llextp -lepc -lnlsrtl3 -lcore4 -lnlsrtl3 -lcore4
-lnlsrtl3 -lclient -lvsn -lcommon -lgeneric -lnlsrtl3 -lcore4 -lnlsrtl3
-lcore4 -lnlsrtl3 `cat
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/sysliblist` -lc -laio -lm
sh: cob: not found
***Error code 1
make: Fatal error: Command failed for target `rtsora'

```

これは、MicroFocus COBOL 用の実行モジュール「rtsora」を作成しようとしてエラーが発生しています。

MicroFocus COBOL を使用していない（COBOL/UX を使用している）場合は、「Igrone（無視）」を選択し、Oracle インストールを進めてください。

製品の制限事項および既知の障害

既知の障害および制限事項については、各製品ごとの doc ディレクトリ下のオンライン README ファイルを必ずお読みください。

オンライン README ファイルに記載以外の日本語環境での既知の障害および制限事項について次に記述します。

Precompiler について

製品の demo プログラムおよびファイルは参考用です。そのままでは動作しないものがあります。

製品のソフトウェア要件の詳細については、『Oracle8 Server for HP 9000 Servers and Workstations (HP-UX 10.20) インストレーション・ガイド リリース 8.0.6』を参照してください。

なお、サポート対象となるコンパイラのバージョンに関しては、コンパイラの提供ベンダーが上位互換を保証している場合は、下位バージョンのコンパイラに対して Precompiler がサポートしている範囲において、上位バージョンのコンパイラについてもサポート対象とします。

コンパイラの互換性については、コンパイラの提供ベンダーもしくはご購入元にお問い合わせください。

Migration Utility

- Migration Utility にて移行できる Oracle7 Server のリリースは 7.1.6, 7.2.3, 7.3.3, 7.3.4 です。
但し、レプリケーション環境を使用しているデータベース（読み出し専用スナップショットを除く）を移行する場合、必ず Oracle7 リリース 7.3.3 以上（リリース 7.3.4 を推奨）に移行してから、Oracle8 への移行を行ってください。
- データベース・キャラクタ・セットと NLS_LANG 環境変数のキャラクタ・セットが一致していないとデータベースを正常に移行できません。必ず同一のキャラクタ・セットを設定していることを確認してから Migration Utility を起動してください。
- Migration Utility を起動するには、Oracle Installer からとコマンドラインからの 2 通りの方法がありますが、US7ASCII 以外のキャラクタ・セットのデータベースに対しては、Oracle Installer から起動すると正常動作しません。Migration Utility はコマンドラインから起動してください。

HP-UX 10.20 ではサポートされていない製品

次の製品は、HP-UX 10.20 ではサポートされていません。

- SPX/IPX Protocol

Oracle Parallel Server の制限事項

Parallel Server モードでリンクされたクラスタ上のすべての Oracle データベースは、GMS 実行ファイルのワードサイズに一致している必要があるため、データベースはすべて 32 または 64 ビット実行ファイルを実行しなければなりません。

異なるデータベースにまたがっている場合も含み、データベース全体で Parallel Server 実行ファイルのワードサイズが異なると動作しません。この制限は、Parallel Server モードでリンクされていない Oracle 実行ファイルには適用されません。

大きいファイル

Oracle8 Server for HP-UX 10.20 リリース 8.0.6 では、データベースファイルとして、2GB を越える大きなファイルサイズをサポートします。

mkfs コマンドまたは newfs コマンドで大きなファイルのファイルシステムを作成します。次に例を記述します。

```
/usr/sbin/mkfs -F hfs -o largefiles /dev/vg02/lvol1
```

HP-UX では、fsadm コマンドを使うことで、no-large-files ファイルシステムから large-files ファイルシステムに変換することができます。次に記述した例を実行する前に、一度「unmount」し「fsck」を行ってください。

```
/usr/sbin/fsadm -F hfs -o largefiles /dev/vg02/lvol1
```

Oracle Data Gatherer(DG)の制限事項

DG を使用する際に不具合があります。

回避策として、DG のログ・ファイルとトレース・ファイルを消去してください。

デモストレーションについて

すべての製品デモストレーションには、ANSI C コンパイラが必要になります。

Net8 OpenAPI のサポートについて

Net8 OpenAPI はサポート対象外です。

英語オンラインドキュメントの扱いについて

CD 媒体上の英語のドキュメントと同一のドキュメントが日本語で提供されている場合は、日本語版を参照してください。

エクスポートのメッセージについて

表示される日本語メッセージに不具合があります。

「"xxx"」には、文字列が挿入されます。

エラー番号	誤	正
EXP-00214	表領域"xxx"をエクスポートしています	表"xxx"をエクスポートしています

Legato Storage Manager について

レガートシステムズ社の Networker Server Software および Networker Client Software がインストールされている上に、Legato Storage Manager をインストールすることはできません。これらは、共存する事はできません。

共有ライブラリについて

OCI について

Oracle 社から提供されている次の Make ファイルを使用して、共有ライブラリをリンクするためには、次のように 163 行目を修正してください。

\$ORACLE_HOME/rdbms/demo/demo_rdbms.mk

[誤]

```
build: $(LIBCLNTSH) $(OBJS)
$(ECHODO) $(CC) $(LDFLAGS) -o $(EXE) $(OBJS) $(OCISHAREDLIBS)
```

[正]

```
build: $(LIBCLNTSH) $(OBJS)
$(ECHODO) $(CC) $(LDFLAGS) -Wl,+n -o $(EXE) $(OBJS)
```

Installer から複数ノードへモジュールを配信するとエラーが発生

Installer から複数ノードへモジュールを配信しようとするエラーで失敗します。

```
"Notification
  unix.pin(1522):Unbound varriable 'DoRcopy_List' "
```

手順例：

- a. installer 起動
- b. Install Type:Custom Install
- c. Install, Upgrade, or De-Install
- d. Install Oracle8 Cluster
- e. RemoteNode を指定
- f. OPS を含む、導入製品を全て選択
- g. 依存性チェックの後、エラー発生

このため、CD-ROM から直接インストール（配信）するのではなく、インストール作業を個別に行うことで対応してください。

1. 各ノードで \$ORACLE_HOME が異なる場合

全ノードを個別に CD-ROM からインストールしてください。

2. 各ノードで \$ORACLE_HOME が同一の場合

上記 1 に従うか、あるいは 1 ノードにインストール後、\$ORACLE_HOME 以下を全ノードにコピーしてください。このときファイル権限などを保持するように注意してください。（tar cvf \$ORACLE_HOME.. -> ftp -> tar xvf.. など）